

みえの

子ども  
白書

2019

三重県



# 三重の子どもたち、大人たちへ

～家庭や地域等とのかかわりの中で、子どもたちが豊かに育つために～

---

三重県では平成23年4月に、県民や関係者が相互に連携・協働し、子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりに取り組むことを決意して、「三重県子ども条例」が制定されました。「みえの子ども白書」は、この条例に基づく取組の一環として、子どもや保護者、県民の皆さんへのアンケート調査の結果を中心に、子どもの生活実態や意識、周囲の大人の意識や地域社会の状況などについてまとめたものです。

私は、子どもが自分らしくいきいきと育つためには、子ども自身が自分を大切な存在であると感じることができる「自己肯定感」が何よりも大切であると思っています。そして、夢や将来の希望を持ち、新しいことにチャレンジしていく気持ちが、変化の激しい社会の中であって子どもたちの「生き抜いていく力」となると信じています。

今回の調査によると、自己肯定感と夢や希望を持つこと、新しいことにチャレンジすることに関係性がみられます。また、家庭や地域などにおける大人の理解やかかわり方が子どもの自己肯定感に影響することがみえてきており、子どもたちの豊かな育ちのために、家庭や地域が一体となって、子どもを見守り、育てていかなければならないとの思いを一層強くしています。

私たち保護者や地域の大人は子ども一人ひとりを大切に思っていることを伝え、子どもたちが日常の出来事や悩みごとなどを話せる関係を築くことが大切であると考えます。

この白書をご覧いただき、大人の皆さんには、子どもの成長にとって、家庭や地域等がどのようにかかわっていくことがよいのか、考えるきっかけにいただければ幸いです。

子どもたちには、みんなの幸せを願って、大切に思っている大人が周りにたくさんいることを知ってもらい、夢や希望を持ち、さまざまなことに挑戦して、未来の社会を担う人材に育てていただくことを願っています。

平成31年（2019年）2月

三重県知事 鈴木英敬

# 目次

Contents

■ はじめに	
～「みえの子ども白書2019」刊行にあたって～	2
「みえの子ども白書2019」の全体像	4
■ 第1章 子どもの生活	
1 子どもと家庭	8
2 子どもと社会	13
■ 第2章 子どもの気持ち	
1 子どもの自己肯定感	18
2 子どもの規範意識	24
3 子どもの悩みと相談相手	26
■ 第3章 子どもと大人	
1 家族との関係	34
2 大人の理解・姿勢	40
3 体験	47
4 子どもの自己決定	51
5 保護者の自己肯定感	57
■ 第4章 子どもと地域	
1 地域の応援	62
2 子どもと地域の大人のかかわり	71
■ 第5章 「家族」をもつこと	
1 結婚観	78
2 子どもを持つこと	79
3 男性の育児参画	81
4 理想の家族の住まい方	82
■ 資料編	83
■ 三重県子ども条例に基づく 調査の結果概要（単純集計）	97

# はじめに

## ～「みえの子ども白書2019」刊行にあたって～

---

「子どもは、一人ひとりかけがえのない存在である。」

この一文で始まる三重県子ども条例（平成23年4月1日施行、以下「条例」といいます。）は、「子どもが豊かに育つことができる地域社会づくり」に向けて、地域のさまざまな主体がともに連携して取り組むために必要な事項を規定したものです。

条例の前文では、

「全ての子どもには自ら育つ力と多くの可能性があり、子どもは自分が受け止められ、認められていると実感することで自己肯定感を高めることができる。また、子どもは、家庭や学校を始めとする地域社会での経験を通して、人との様々な関わりや多様な価値観に触れることで、人を思いやる心や自らの課題を乗り越える力を身に付けることができる。そして、次の世代を大切に育てることのできる大人へと育っていく。そのために、人と人との強い絆で結ばれた地域社会を形成し、子ども一人ひとりが力を発揮して育つことができる社会へと向かうことが求められている。」

としています。

条例第14条では、その推進にあたり、「知事は、子どもの生活に関する意識、実態その他のこの条例に基づき県が行う施策の推進に必要な事項を調査し、その結果を公表するものとする。」としています。

この白書は、同条に基づいて県が平成30年度に実施したアンケート調査（子ども調査、保護者調査、県民調査）の結果を中心に、子どもの生活実態や意識、周りの大人の意識や地域社会の状況等についてまとめています。

(アンケート調査の概要)

- ・調査時期：平成30年7月～8月
- ・調査対象、件数等

調査名		対象者	有効回収数
子ども調査	小学5年生	市町立小学校を市町ごとに各1校 計29校、 県立特別支援学校3校、 私立小学校1校の対象学年の児童	1,425件
	中学2年生	市町立中学校を市町ごとに各1校 計29校、 県立特別支援学校3校、 私立中学校1校の対象学年の生徒	1,871件
	高校2年生	県立高等学校11校、県立特別支援学校3校、 私立高等学校1校の対象学年の生徒	1,299件
保護者調査		上記の小学5年生、中学2年生の保護者	3,020件
県民調査		29市町の選挙人名簿に基づき無作為抽出	1,472件

- ・調査主体：三重県 子ども・福祉部 少子化対策課
- ・調査委託期間：株式会社 百五総合研究所

【注】

(1) 地域別補正について

県民調査について、平成23年度調査では5地域（北勢、伊賀、中南勢、伊勢志摩、東紀州）ごとに2ないし3市町を選定し、調査対象者を抽出しましたが、平成27年度調査と今回調査（平成30年度調査）では、選挙人名簿登録者数の比率に基づいて、すべての市町から調査対象者を抽出しています。

また、すべての市町ごとに1校ずつ選定して実施した市町立小中学校の児童生徒及びその保護者を対象とする調査について、平成23年度調査では、1校あたり70人を基本として調査対象者を抽出しましたが、平成27年度調査と今回調査では、各市町の児童生徒数を基本として抽出しています。

このため、平成23年度調査との比較を行うにあたり、県民調査や小学生、中学生及びその保護者を対象とする調査については、平成23年度調査の結果について地域別の補正を行っています。

なお、高校生を対象とする調査については、平成23年度調査と調査対象者の抽出について大きな違いがないことから、地域別の補正は行っていません。

(2) 本書の図表において、「無回答」の数値については記載を省略しています。また、比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。複数回答の比率は、各選択肢の回答数を当該設問における総回答者数で割った比率であり、比率の合計は通常100%を超えます。

(3) 一部の図表に記載のある（n=〇〇）は、その設問における回答者数を表しています。

# 「みえの子ども白書2019」の全体像

## 全国学力・学習状況調査

平成19年度から小・中学生を対象に文部科学省が実施している調査



## 子ども調査（アンケート）

小・中・高 合計4,595件  
（特別支援学校含む）

### 【主な項目】

- 自己肯定感
- 「大切にされている」か
- 「意見を聞いてくれている」か
- 近所の人との関係
- 結婚や子どもを持つことの意識

## 保護者調査（アンケート）

小・中 保護者 合計3,020件  
（特別支援学校含む）

### 【主な項目】

- 子どもの「意見を聞いている」か
- 子どものことを「理解していると思う」か
- 地域の人とのつながり
- 子育てにおけるニーズ
- 自身の自己肯定感

## 県民調査（アンケート）

18歳以上の県民 合計1,472件  
（選挙人名簿から無作為抽出）

### 【主な項目】

- 近所の子どもとの関係
- 子どもの育ちへの応援
- 理想の家族の住まい方
- 現在参加している子育てに関する活動
- 今後参加したい子育てに関する活動

## 三重県子ども条例に基づく調査

## 統計データ

- 国勢調査
- 人口動態統計
- 学校基本調査 等



## 第1章 「子どもの生活」

子どもの生活実態を明らかにします。

- ◆第1節 「子どもと家庭」
- ◆第2節 「子どもと社会」

## 第2章 「子どもの気持ち」

子どもの内面的な実態を明らかにします。

- ◆第1節 「子どもの自己肯定感」
- ◆第2節 「子どもの規範意識」
- ◆第3節 「子どもの悩みと相談相手」

## 第3章 「子どもと大人」

子どもと大人の関係のなかでの相互の意識を明らかにします。

- ◆第1節 「家族との関係」
- ◆第2節 「大人の理解・姿勢」
- ◆第3節 「体験」
- ◆第4節 「子どもの自己決定」
- ◆第5節 「保護者の自己肯定感」

## 第4章 「子どもと地域」

子どもの育ちを支える地域の実態を明らかにします。

- ◆第1節 「地域の応援」
- ◆第2節 「子どもと地域の大人のかかわり」

## 第5章 「家族」を持つこと

結婚や子どもを持つこと、子育てなどに対する気持ちを明らかにします。

- ◆第1節 「結婚観」
- ◆第2節 「子どもを持つこと」
- ◆第3節 「男性の育児参画」
- ◆第4節 「理想の家族の住まい方」

資料 三重の子どもをとりまく現状

- 基本的な生活習慣の傾向
- 携帯電話（スマートフォン）の所持状況  
など

- 「自分のことが好き」と「新しいことにチャレンジすること」の関係
- 困ったことや悩みがあったときの相談相手  
など

- 「大切にされている」、「意見を聞いてくれる」などの子どもと大人の意識の差
- 大人が感じる今の子どもたちの特徴  
など

- 子育てに関する活動のニーズと、地域の人  
が参加したい活動
- 近所付き合いの程度  
など

- 高校生の結婚観や家族観と赤ちゃんや小さい子どもとふれあった経験との関係
- 男性の育児参画についての意識
- 理想の家族の住まい方  
など

子どもをとりまく背景を統計データなどから整理します。

## 調査結果を受けて

家庭や地域等とのかかわりの中で、子どもたちが豊かに育つために

- 子どもが困ったことや悩みがあったとき家の人や誰かに相談することと、自己肯定感や家庭・地域等で「大切にされている」と感じることに関係性がみられる。また、小さいころに家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したり、スポーツをしたりした経験と、悩み等への相談の有無にも関係性がみられる。
- 子育てにおいて近所・地域の支えは重要と考える人が大多数で、保護者からのニーズもあるなか、子育てに関する活動について、情報がないために活動に関わる機会がない人や、参加したいけれどもどのような活動がよいかわからない人が一定数いる。
- 日常の会話や悩み相談の有無など、親子関係と高校生の結婚観や家族観に関係性がみられる。

保護者や地域の大人が子どもに関心を持っていることを伝え、ふだんから子どもが悩みごとなどを話せる関係を築くことが大切で、親子の会話やふれあいを促す家庭教育の取組や地域で子どもを育てていくという機運の醸成が重要であると考えられる。

また、子どもがより相談しやすい体制とその普及も大切である。

保護者への子育て支援の充実に向けては、支え手となる地域の人の子どもへの関心を高めるとともに、地域の取組等の活動にかかる情報提供などのサポートが重要と考えられる。

